

1 学校教育目標	2 目指す姿（学校像・生徒像・教師像）
人と人をつなぎ、多様な力を生み出し、社会に広げる行動的な 人材を育成する （みらいを展望し、新たな価値を創造する商業教育を展開し、 地域社会と平和に貢献する）	○ 自らが課題を認識し、仲間とともに解決に向けて思考・判断し、行動できる 「生きる力」 を育成する学校 ○ ビジネス分野における新たな価値の創造に挑む、商業の「スペシャリスト」を養成する学校 ○ 幅広い「教養」と豊かな「人間性」を身につけさせる学校 ○ 自らの力を試し、仲間と協働して様々な課題に挑み、その取り組みを振り返りながら自らを高めていく生徒 ○ 基本的な生活習慣を身につけ、前向きに取り組む生徒 ○ 将来に希望を持ち、望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に挑む生徒 ○ 生徒に新しいことに挑戦するきっかけを与え、励まし続ける教職員 ○ 生徒に深い思考を促し、自ら判断して責任を持って主体的に行動する意欲を高め、持続させる教職員 ○ ESD の視点で外部と連携し、生徒に多様な価値観や文化に触れさせ、実践的な学びを創出する教職員

3 現状と課題
○指導と評価の一体化を図り、学習・指導の改善充実や教育環境の充実等による「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組む。 ○経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の流れなどを踏まえ、ビジネスを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成できるように改善・充実を図る。 ○本校の教育内容と実施状況、学校を取り巻く状況、中学生のニーズ等の分析を行い、中学生にも魅力ある学校づくりに努める。

4 目標				
[中期経営重点目標] ○思考力・判断力・表現力の育成と学びに向かう内発的動機付けの工夫 ○道德教育の充実及び保護者・地域社会との教育ネットワークの充実 ○業務の明確化と改善策の検討		「評価結果」の評価基準について 4：目標達成 3：目標を達成していないが、成果が見られる 2：目標を達成しておらず、成果もあまりないため方策の見直しが必要である 1：目標を達成しておらず根本的に見直しが必要である		[評価指標] ○学習評価方法の早期確立と評価の活用による授業改善と学習意欲の向上 ○いじめや学級内の問題に対する組織的な対応、HP等で高頻度に学校の魅力を発信 ○定時退校日(17:30までに退校)の実施頻度
短期経営重点目標（2年目）	評価指標／評価結果	主な具体的方策	実施状況	分析結果(○は成果、●は課題、◎は改善点)
各教科における「主体的・対話的で深い学び」に繋がる授業や外部と連携した学習について、研究や授業実践を推進する。	(生徒ESDアンケートより) 学習意欲の高まり 70%以上 47.6% 毎日の家庭学習 1時間以上 32.7分 (授業観察の集計より) 教員一人当たり授業観察回数 年6つ以上 達成率 40.8% 評価 (4段階) 2	○教科指導および主体性を育む協働学習や探究学習を工夫して、各教科の先生方や担任の先生方と連携を取り、課題を行うように促すことで、家庭学習の習慣を定着させる。 ○地域や産業界と連携を図り、講話など授業や総合的な探究の時間で協力していただく機会を設定し、実践的で体験的な学習活動を実施する。 ○授業観察の機会を設定し、他教科の教育内容や指導手法、ICTの活用(スタディサプリ等)について理解を深め、教科横断の学習や指導と評価の一体化を図る。	○分掌や教科会で、指導方針を決定し、組織的に取り組んでいる。 ○コースやデパートの取組で外部の講師と連携した授業を展開している。また、地域の取組や各種コンクール等へ参加にも取り組んでいる。 ○授業観察の授業実施数と観察数を引き上げるため、コア会議、ハイスクールビジョン推進プログラム実施委員会（以下HV会議）が中心となり、精力的に働かけた。 ○生徒に既習知識を活用させる場面が設定され、実際の活用を通して、体験学習が進んでいる。 ○学習アプリを活用し、個別最適な学習ができるよう、課題配信や研修、到達度テストを実施した。	○家庭学習が定着するよう呼びかけ、ICTツールの活用の普及を促した。 ○授業観察について、授業者が随時、授業日を示すことができる仕組みが構築された。また、HV会議の委員全員が全体に呼びかけることで、授業観察が促進された。 ●授業の目標について、授業開始時に提示されることがやや少ない。 ●学習アプリを活用した学習について、生徒の実態を分析するまでには至っていない。 ◎本校の学びを示したグランドデザインを校外外で示し、分かりやすく伝え、広める。
社会人に必要な資質や集団における自己の役割の理解及び責任を果たそうとする態度を育成する。	(学校生活アンケートによる) 当事者意識の芽生え 70%以上 63.1% 主体的な言動の実践 70%以上 63.8% タイムマネジメント力の向上 70%以上 40.1% 評価 (4段階) 2	○主体性が高まる教育活動の好事例を共有し、学校全体で新しいことに挑戦する生徒を育成する風土を醸成する。 ○行事や部活動等の集団で取り組む場面において、相手を思いやった活動目的の理解とともに、当事者意識を持たせ、保護者と協力して生徒に自ら考えさせるよう取り組む。 ○登校や学校生活上のスケジュールリング、また、清掃や思いやり等の大切さを理解させ、見通しを持った時間管理能力を高まるよう、セルフコントロールができるよう考えさせる。	○整美委員会の活動を主体とした、掃除時間のゴミ分別作業、せっけん当番、ワックスがけ等に取り組んだ。 ○授業や行事、部活動等、複数の生徒と協働する活動を多く設定し、自己指導能力の育成を図った。 ○校内研修等の場面において、好事例の共有や生徒アンケート等の実態分析に取り組んでいる。 ○意図的に生徒がタブレットを活用する場面を多く設定し、学習面での使用スキルの向上や習慣化に加え、生活面でもスケジュール管理に活用し、自分やクラスの仕事に応用している。 ○学期ごとの集会や講話で、遅刻防止をよびかけた。	○学校集会や学年集会等で、生徒に対面で伝えることで、安心・安全な学校生活を送るために必要なことを考えさせることができた。 ●学習面での使用スキルの向上や習慣化に加え、生活面でもスケジュール管理に活用し、自分やクラスの仕事に応用する力にやや欠ける。 ●伝え方を工夫し、自分事として捉えるように取り組む策を講じる必要がある。 ◎授業や行事、部活動、課題活動等において、主体的、協働的な活動となったかについて振替させる機会を充実させる。
業務改善を進め、全教職員の年間月平均の勤務時間外の在校時間を45時間以下にする。	全教職員の勤務時間外の在校時間 45時間以下 60.9% 評価 (4段階) 2	○タブレットの活用等により、業務の効率化につなげる。 ○教職員が複数で正確に成績処理が遂行できる時間を計画する。 ○各分掌や部活動顧問や指導員との連携による業務分担や整理とともに、設定した定時退校日を共有し、援助希求しやすい職場環境づくりを推進する。	○タブレットを会議にて積極的に活用する中で、業務効率が向上するように、使用方法やルールについて、検討した。 ○適正な成績処理ができるよう、全体で集中できる日程と働きかけを行った。 ○定時退校日について、教職員間で声をかけやすい雰囲気を作るために、学期に1度、退校日一覧を示した。	○定期考査や成績処理について、ミスをしにくい手立てを協議し、全体に広めた。 ○校内でICT活用による学校全体の業務改善につながるよう、先生方が自分でできると思える方法や伝え方を工夫する。 ●授業や校務における効率的な使用方法等を集約し、先生方へ示し共有する。 ◎行事や会議等、振り返りを行い、効率のよい体制となるよう、以降の行事の改善につなげる。

5 学校関係者評価に関する事項（主な意見等）	6 その他の報告事項
○評価の根拠となる数値データについて、総数に加え、学年別等の対象別や経年変化等の詳細な分析も行い、次年度に生かすとよりよい。 ○地域の団体や企業等と連携した取組を発展させることを継続していく。 ○業務改善・勤務時間等については、短くすればよいという考え方だけではなく、他の教員と協力し、レフレッシュする時間を大切にすべき。	○生徒の学習については、話を聴くだけではなく、本物を見たり、体験したりする学習が有効である。 ○中学生、保護者、地域の声を聴き、競技していくことが大切である。